第4回未来会議(全体会) 議事録

日時: 令和3年6月20日(日)13:30~16:50

会場: 西集会所

出席者:(順不同、敬称略)

須都 紘(会長)、伊藤 智子、梅本 慎二郎、中谷内 政之(以上 副会長)

鎌田 卓 (事務局長)、鈴木 豊 (書記・広報)、蔵田 かほり (会計)

田口 信義、中世古 昭一、黒部 實、山地 祐輔、山田 勲、須田 健一、野津 拓也、

黒田 勝行、福家 稔、谷猪 富貴子、山田 修、渡辺 昇

配布資料:

- ① 議題
- ② 鹿ノ台中期まちづくりービジョン・基本目標・具体的施策(まとめ)
- ③ 鹿ノ台中期まちづくりの課題と対策について
- ④ 未来会議「アンケート」案
- ⑤ 「官民連携まちなか再生推進事業」について

主な議事

須都会長より

- ・コロナ感染症は減少傾向にあるが、感染対策は引き続き実施していく。
- ・これまで未来会議で、鹿ノ台中期まちづくりのビジョンを 11 名から発表していただき、 意見交換を行ってきた。たたき台としてまとめたので、皆さんの意見を伺いたい。
- ・中期まちづくりの課題と対策については、6名から提案を受け、本日発表していただく。
- ・分科会立ち上げの提案に加え、住民のみなさんの意見を聴くアンケートも提案したい。
- ・令和 4 年度に応募することを検討している「官民連携まちなか再生推進事業」について も情報共有したい。

鹿ノ台中期まちづくり - ビジョン・基本目標・具体的施策 (まとめ)

- ・皆さんから出された様々な提案を、「まちの将来像」、「まちづくりの目標」、「具体的な施 策」及び「期待される効果」にまとめた。
- ・また、これらの提案を「鹿ノ台みらいまちづくり:理念・基本目標・具体的施策(素案)」として、整理した。
- ・一番大切な理念については、未来会議設立準備委員会から「みんなでつくる わたしのふるさと鹿ノ台」が提案されているが、未来を考える会議の理念として「ふるさと」でよいのかという意見が幹事会で出されたため、別の案を3つ用意した。
 - 1. 住む人みんなが幸せな鹿ノ台

- 2. 住む人がみんな笑顔の鹿ノ台
- 3. みんなでつくる希望と幸せのまち 鹿ノ台
- ・基本目標は下記の5点とした。
 - 1. 安心・安全なまち
 - 2. 子育てしやすい・活気のあるまち
 - 3. 緑豊かな癒やしのまち
 - 4. 高齢者にやさしいまち
 - 5. 交流とにぎわいのまち
- ・それぞれの基本目標に対して、具体的な施策を列挙した。
- ・たたき台の段階であり、ご意見を伺いたい。

理念について

- ・理念はわかりやすく一言で表現するのがよい。「ふるさと」は、これからも鹿ノ台が継続 していくことを表したことばであり、よいと思う。
 - → 「ふるさと」というと、田園風景の中、お盆と正月に帰る故郷をイメージすることに なり、未来を考える未来会議にはふさわしくないのではないか。
- ・「しあわせ」や「希望」は主観的すぎる。
 - → 「しあわせ」は定量化されており、国際比較もできる。主観的ということはない。
- ・納涼祭のテーマはまさしく「ふるさと」。子世代が帰省してくる納涼祭にはふるさとがふ さわしいが、未来会議には合わないのではないか。
- ・「みんながしあわせ」は、SDGs の「誰ひとり取り残さない」にも通じる。
- ・この他に「絆」、「住みよいまちづくり」、「住み続けたいまち」、「選ばれるまち」、「住みたくなるまち」など様々なキーワードが出た。未来会議の根幹に関わる大切なポイントであるため、次回に議論を持ち越すこととした。

基本目標について

- ・5項目の基本目標に沿って5つの分科会を設置するのか。
 - → 現時点では分科会と連動させるところまでは考えていない。

鹿ノ台中期まちづくりの課題と対策について

鈴木構成員より

- ・未来会議は他の会議体等では対応できない中長期の課題に対して対策を立て、実行して いく会議である。
- ・鹿ノ台が今後も安心で快適なまちであり続けるためには、今後も「適切な人口構成のもとで一定の居住者数を確保し続けていくこと」が必要最小限の条件である。他の会議体等では対応できない「鹿ノ台を引越し先に選んでもらうために何をなすべきか」について、未来会議が立案・実行しなければならないと思う。
- ・取組の前提となる行政作成のプランを見ると、生駒市の都市計画マスタープランでは、鹿 ノ台において未来会議の取組みに支援が期待できる記述もある。

- ・一方で学研高山第 2 工区のプランでは、鹿ノ台に隣接する地区に居住機能/商業機能が新設され、高山と精華町を結ぶ(鹿ノ台を素通りする)道路の計画も予定されている。
- ・このような動きが本格化する前に、転入促進の取組みを急ぐ必要がある。
- ・参考として、鹿ノ台を地盤とする不動産事業者に、引越し先として鹿ノ台を選んだ人の声、 選ばなかった人の声を聞いた。選ばなかった人からは実際に厳しい声が出ていた。
- ・これらを踏まえ、転入を促進するための分科会を立ち上げ、鹿ノ台がアピールできるポイントをしっかり PR するとともに、改善できる事項に順次対応していくことを提案する。 梅本構成員より
- ・人口減少、少子高齢化が課題である。対策としては、「人口流入策を講じる」か「人口減少を許容できるまちづくりを行う」かしかない。
- ・人口流入策については、生駒市周辺の雇用創出、移住検討者への広報、鹿ノ台の魅力を高 める取組みを進めてはどうか。
- ・学研高山第 2 工区において雇用が創出されれば、移転してくる人たちを周辺の住宅地と競争しながら獲得することになる。先に鹿ノ台の魅力を高めておく取組みが有効である。
- ・「人口減少を許容できるまちづくり」については、全国的に人口が減少するなか、鹿ノ台だけ人口減少を食い止めることは困難である。具体的な方策があるわけではないが、人口減少を許容できる街を創ることも検討すべきではないか。

山地構成員より

- ・「子育て世代に鹿ノ台を選んでもらうこと」を実現するための課題は、「鹿ノ台を選ばなかった人たちが、なぜ鹿ノ台を選ばなかったのかを私達が把握できていないこと」である。
- ・対策としてまず不動産事業者へヒアリングし、「事業者から見た鹿ノ台のアピールポイント、印象」と「鹿ノ台を候補としながら他地域を選んだ判断理由」を把握したい。
- ・生駒市の行政から見た鹿ノ台のイメージについても確認してはどうか。
- ・ 先手を取って鹿ノ台の良いところをしっかりとアピールすることが大切だと思う。 伊藤構成員より
- ・課題は子育て世帯の新規移住を促進することと、現在鹿ノ台に住んでいる子育て世代にとって住みやすい街をつくることである。
- ・そのために取り組むべき課題は、子供の居場所づくりである。
- ・鹿ノ台小学校では高学年のクラスが荒れやすくなっている。共働き世代の増加に伴い、夕 方や休日に親のいない家で寂しい思いをしている子どもも多い。このような子どもに対 し、地域の大人が遊びの場を提供するなどで支援する活動を行ってはどうか。世代間の交 流が進むメリットもある。
- ・このような取組みを行っていることが鹿ノ台の外に伝われば、子育て世代に移住先として魅力的な街であると思ってもらえる。
- ・小学生対象の場合は遊びやイベントと組み合わせる、小中学生対象では自習できる場を 提供するなどが良いのでないか。

山田(修)構成員より

- ・鹿ノ台メガソーラー発電の課題は、土地利用と発電建設許可に関する生駒市との折衝、資 金調達、実例がない工法が可能か技術面の課題及び採算性である。
- ・生駒市の折衝については、政府の方針と一致するため、行政には追い風になっており、生 駒市も乗ってきやすい状況である。
- ・資金調達については、金融機関からの借り入れ、行政からの補助、企業版ふるさと納税の 活用のほか、クラウドファウンディングにより多数の国民から出資金を集める手法もあ る。
- ・技術面、採算性などは今後、詰めた議論が必要であると考えている。

鎌田構成員より

- ・一番大切なのは安心・安全なまちの維持である。付属池田小事件などの大事件がもし鹿ノ台で起こってしまったら、どんな取組みをやっていても鹿ノ台の評判は地に堕ちてしまい、取り戻せない。
- ・具体的な課題・対策として、下記の4点を提案する。
- ① いきいきホール西側車庫部分の解体後の跡地利用
- ・車庫部分解体後、舞台を設置すればイベントを開催しやすい。イベントがないときには喫 茶スペースとしても活用できる。出入り口の工夫により、安心して利用できる場となる。
- ② 中央公園の魅力の向上
- ・中央公園には遊具はないが、各地域 11 カ所の児童公園には遊具がある。中央公園の利用 状況を見たり、利用者にヒアリングをしたところ、遊具は不要だと感じた。
- ・一方で公衆トイレが旧式であるほか、防犯カメラがない、見通しが悪い区域があるなど、 防犯上、望ましくない状況があり、改善が必要である。
- ③ 運動公園の活用
- ・利用状況をみたうえで、駐車場の拡大なども行い、貸しグランドとしての活用を検討して はどうか。ただし拡大した駐車場の屋根にソーラーパネルを設置しても、費用対効果は出 ないと思われる。
- ④ DIY お助け隊の設立
- ・日常のちょっとしたことで高齢者が困っている現状がある。このような困りごとに対応 できるお助け隊を結成したらどうか。
- ・技能習得の機会を設けるとともに、市からの補助の確認や費用負担をどうするかなど取り決めが必要。

質疑応答

- ・鹿ノ台に良いところもたくさんある。他の地域とどのように差別化できるかが、マーケティングの基本である。
- ・転入者が望んだとしても、「マンションに住みたい」というニーズには応えられない。
- ・学研高山第 2 工区は、地権者や地元自治会との交渉が難航しており、なかなか先に進めていない。

・メガソーラーについて、生駒市が出資している「いこま市民パワー」の取組みを参考にされるとよいと思う。

まちづくりテーマの絞り込みと分科会での深堀について(資料なし)

- ・課題と対策として上がってきた「転入促進」について、転入促進対策分科会(仮称)を立 ち上げることを提案したい。
 - → 活発に意見交換され、「わざわざ分科会を立ち上げる必要はない」、「取組みの全体像が見えていない段階では拙速である」という反対意見と、「実働部隊ができるのはよいことである」、「若手のやる気を尊重すべき」という賛成意見が出た。
- ・分科会として立ち上げるのではなく、当面は転入促進のための課題を数人で調査することとした。
- ・取組みの全体像が見えないという意見に対し、鹿ノ台の中期ビジョンのたたき台を改め て示すこととした。

未来会議「アンケート」案

- ・鹿ノ台の課題について、住民の意見をしっかり聞きたいのでアンケート実施を提案する。 未来会議が住民にまだ浸透していないので、「開かれた会議である」ことをしっかり PR したいという狙いもある。
 - → 「最終報告ですでに SWOT 分析されている」、「課題が増えるだけ」などの反対意見と、「SWOT 分析では若手の意見が反映されていない恐れがあり、意見を聞くのはよい」とする賛成意見が出た。
- ・再検討することとなった。

「官民連携まちなか再生推進事業」について

- ・山田勲構成員より:これまでも他の事業で補助金申請を行い、いきいきホールの備品購入などに補助金を受けてきた。来年度からこの事業に自治会が参加できるようになったため、締切まで極めてタイトななか、仮申請を済ませた。申請額は400万円。本申請は来年1月締切である。
 - → 次回の未来会議で申請内容を詳しく共有することとなった。

その他

・活発に議論されるなかで、大きな声で発言されると威圧感を感じる。会議として人の意見 をしっかり聴くことが大切だと思う。

次回

日時

7月18日(日)13:30-15:30

会場

西集会所

主な議題(案)

- 1. 鹿ノ台中期まちづくりの課題と対策 ※未提出の構成員は、可能な範囲で7月5日(月)までに須都会長に提出すること
- 2. 鹿ノ台中期まちづくり-ビジョン・基本目標・具体的施策
- 3. その他

以上